

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 宮本 久
編集人 片岡 伸子

No.612

★「2019 若い人に贈る読書のすすめ」書目決定(2頁)

★「第51回 全国優良読書グループ表彰」(3頁)

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる



「若い人に贈る読書のすすめ」によせて

子ども、親、祖父母： 三世代で読んでほしい本

株式会社マガジンハウス
取締役(編集担当)

てつおしゅういち
鉄尾周一

「なんで『君たちはどう生きるか』を、漫画にしようと思っただですか?」

200万部を超えるベストセラーとなり、いちばん多くいただいた質問です。

「ぜひ若い人たちにも、読んでもらいたかったから」

原作が書かれたのは80年前、第二次世界大戦が始まる直前のことです。ぼくが大学生のころに読んでからでも、40年近くたちます。歴史的な名著ですが、あまり本を読まなくなつたと言われる若い人たちがこの本を手にとるような日がくるとは、正直考えたことはありませんでした。ところがうれしいことに5、6年前、同じ編集部に、30代の熱心な愛読者がいることがわかりました。しかも、ふ

たりも。この本のよさは、時代を超えても通じるかもしれない、不穏な世界情勢や日本の未来に不安が高まるいまこそ、どう生きるか“考えるヒントになる本が必要な時代な

のではないかと思いました。時代が変われば、伝え方も変わる。手紙がファックスに、そしてメール、LINEに。この本も、読者に寄りそつた形で伝えれば、きつと読んでくれる、そう思いたどり着いたのが『漫画化』です。

漫画家・羽賀翔一さんが、3年近くもがき苦しんでできなかった作品は、とてもすばらしいものでした。名作から生まれた漫画でも、ひとつの作品として立ち立てできるものを作ろう!というスタッフみんなの熱意の賜物でした。

そんな漫画にだれより先にツイートしてくれたのは、糸井重里さんです。「いまは亡き著者と、これをいま出版しようと考えた編集者と、この本に正面からぶつかろうと思つた漫画家に、カーテンコールのように拍手を続けています」

これに続いてくれたのが、『君たち』世代のお父さんたち。「中学生のころに読んで以来、ずっと大切にしていた本でした」名作と聞いてましたが、読みそびれて。漫画になつたと知って、早速手にとりました

いちばん多かったのが、「ふだん本をあまり読まないうちの子に、ぜひ読ませたいと思つて」という声です。「読め!というとまたへそを曲げてしまうので、何気なく目にとま

るようなところに、置いておきました(笑)。早く読んでくれないかと気が気じゃなくて」微妙な年頃の子どもたちとの接し方に悩む、親御さんの役に立つたのかもしれない。

テレビ番組で取りあげられ、お母さんファンが急増してきたころから、親に勧められて読んでみたら、昔の本とは思えないくらいリアルでももしろい」という中高生、大学生、社会人などの若い読者の手紙が増えてきました。学校の先生も『君たち』の輪を広げてくれるのに一役買ってくれたようです。「いつもは学校に漫画を持つてくるなんてとんでもない、と怒っていた先生がこの漫画はぜひ読みなさいって!読んでみたら、おもしろくてクラスのみんなで回し読み!」

子ども、親、祖父母。読んだ年齢や立場によつても、この本の受けとり方は変わってきます。三世代で読んで意見を交わす。漫画化によつて一冊の本が世代の架け橋になつたとすれば、それが一番うれしかったことかもしれません。

「読む」という行為は、時代を超えても通じるかもしれない、不穏な世界情勢や日本の未来に不安が高まるいまこそ、どう生きるか“考えるヒントになる本が必要な時代な

2019 『若い人に贈る読書のすすめ』実施

10月16日(火)に開催された公益社団法人読書推進運動協議会・事業委員会で、2019『若い人に贈る読書のすすめ』推薦図書24点が選定されました。

今年も例年どおり、道府県読書推進運動協議会に「若い人にぜひ読んでもらいたい本」の推薦を依頼、40の読進協から計89点の書目の推薦をいただきました。

もっとも推薦が多かったのは、五木寛之の『七〇歳下の君たちへ』で、5つの読進協から推薦がありました。

今年も生き方・働き方に関する書籍への推薦が多くありました。例年になく、SF小説への推薦が集まりました。



目立ったことが特徴です。

事業委員会では、①各出版社1点 ②推薦多数書目の検討 ③そのほか特別に推薦したい書目の順で選考。最終的な確認を得て24点が決定しました。

本年度も、この推薦図書を掲載したリーフレットを21万部製作、都道府県の読進協・県立図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布を行い、有効に活用していただく予定です。

このキャンペーンの期間は、成人式から、高校生・大学生が新たな世界へと羽ばたく3月末の卒業シーズンとしています。

成人式や卒業式、読書グループ、学校での読書指導、地域の文化活動などでのご利用のために、予備を多少ご用意していますので、ご希望の方は公益社団法人読書推進運動協議会事務局までお問い合わせください。

03-5244-5270
e-mail info@dokusyo.or.jp

「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット掲載書名一覧

著者名	書名	定価	出版社
湊かなえ	ブロードキャスト	一六二〇	KADOKAWA
額賀 澤	風に恋う	一七二八	文藝春秋
柞刈 湯葉	未来職安	一五二二	双葉社
如月かずさ	給食アンサンブル	一〇二六	光村図書出版
川口 俊和	思い出が消えないうちに	一五二二	サンマーク出版
佐田千織(訳)	世界の終わりの天文台	二三七六	東京創元社
五木 寛之	七〇歳下の君たちへ	一四五八	新潮社
渡辺 和子	あなただけの人生をどう生きるか	八四二	筑摩書房
池上 彰	池上彰の未来を拓く君たちへ	一五二二	日本経済新聞出版社
吉本ばなな	吉本ばななが友だちの悩みについてこたえる	一二九六	朝日新聞出版
辻 仁成	立ち直る力	九九四	光文社
全国不登校新聞社(編)	学校に行きたくない君へ	一五二二	ポプラ社
塚田 祐之	その情報、本当ですか？	九七二	岩波書店
箕輪 厚介	死ぬこと以外かすり傷	一五二二	マガジンハウス
石黒 圭	大人のための言い換え力	八八六	NHK出版
新井 紀子	AI vs.教科書が読めない子どもたち	一六二〇	東洋経済新報社
齋藤 孝	大人のにはんご事典	一四〇四	海童社
道幸哲也(加藤智章 國武英生(編))	18歳から考えるワークルール 第2版	二四八四	法律文化社
フジコ・ヘミング	フジコ・ヘミング14歳の夏休み絵日記	二五〇〇	暮しの手帖社
早乙女勝元	その声を力に	一七二八	新日本出版社
沼口 麻子	ほげ命がけサメ図鑑	一九四四	講談社
山川 徹	カルピスをつくった男 三島海雲	一七二八	小学館
丸山貴史(著)	わけあって絶滅しました。	一〇八〇	ダイヤモンド社
今関 信子	デニムさん 気仙沼・オイヤシムを作る漁師のジーンズ	一六二〇	佼成出版社





2018年度・第51回 全国優良読書グループ表彰 — 都道府県読進協推薦 —

公益社団法人 読書推進運動協議会では、第71回「読書週間」事業として、11月3日(祝)を中心に、各道府県の読書推進運動協議会を通じて、「第51回 全国優良読書グループ(下表)」の表彰を行いました。

読書グループの結成促進と育成強化は、読書推進運動の根幹をなすものとして、公益社団法人 読書推進運動協議会は結成以来、活動の第一目標とし、道府県各読書推進運動協議会と連携して、その育成・発展に努力を重ねています。

この事業は、各読書推進運動協議会の推薦により、一地域一グループを表彰するもので、原則として5年以上の活動を続けているグループを推薦・表彰の対象としています。

現在、読書グループの活動は、読書会、実演活動、家庭・地域文庫、障がいを持つ方への読書支援、図書館サポートなど、多岐にわたつ

ています。全国の読書グループに敬意を表し、数ある読書グループを対象にご推薦の労をとられた、各道府県読書推進運動協議会のみなさまに、深く感謝いたします。

推薦された優良読書グループには、その業績を讃え、公益社団法人 読書推進運動協議会より賞状および副賞(図書カード2万円分)を、各道府県読書推進運動協議会を通じて贈呈いたしました。

各グループの活動状況は、1月号以降、本紙上で逐次紹介していきます。

この優良読書グループ表彰は、1968年 第22回「読書週間」から実施しており、本年までの表彰グループ数は1770グループとなります。

なお、副賞の図書カード2万円分のうち1万円分は、例年同様、日本図書普及株式会社の協賛により寄贈されたものです。同社のご協力に厚くお礼申し上げます。

優良読書グループ名

優良読書グループ名	所在地	代表者(世話人名)
日本よもう!どらねこ倶楽部	北海道中川郡池田町	杉山 知子
八戸子どもの本の会	青森県八戸市	山田 剛也
図書ボランティアこのゆびとまれ	岩手県上閉伊郡大槌町	大萱 生修一
布絵本ボランティア「ふしぎなぼけつと」	宮城県亶理郡亶理町	鈴木 房子
読みかたりグループ「つくしんぼ」	秋田県雄勝郡東成瀬村	岡 光
家庭教育応援・ボランティア活動団体「ベルンち	山形県新庄市	佐藤 成美
読み聞かせボランティアおはなしポケット	福島県伊達郡川俣町	菅田 文子
図書修理の会	茨城県牛久市	三村 佳子
おはなしの会ビノキオ	栃木県下都賀郡野木町	吉場 芳江
藤岡市読み語りの会ネットワーク	群馬県藤岡市	美細津 美恵
やすらぎ読書会	埼玉県秩父市	吉田 洋子
マロニエ読書会	千葉県山武郡横芝光町	井上 富雄
こんべいと	新潟県新潟市	頓所 弘子
杓灯読書会	富山県黒部市	平田 久美子
せせらぎ文庫	石川県金沢市	浅賀 千鶴
菜の花読書会	福井県大野市	田中 康子
南アルプス市立図書館朗読ボランティアすずの会	山梨県南アルプス市	水上 けい子
駒ヶ根市立図書館 読み聞かせボランティア	長野県駒ヶ根市	下島 孝夫

優良読書グループ名

優良読書グループ名	所在地	代表者(世話人名)
北方町読書サークル協議会	岐阜県本巣郡北方町	河口 久美子
おはなしクラブ	静岡県牧之原市	浅野 久子
岩出図書館ボランティアおはなしドロップス	和歌山県岩出市	安居 仁美
朗読なぎさ会	鳥取県境港市	池淵 美津子
伯太町子ども読書クラブ	島根県安来市	山岡 輝美
総社朗読ボランティアグループ「さつき会」	岡山県総社市	土井 しのぶ
親と子の本の広場あいいく館	広島県大竹市	杉嶋 壽子
くれよん	徳島県板野郡松茂町	丸月 香里
キラキラはあと	香川県坂出市	友杉 秀子
布の絵本制作ボランティア「ゆずりはの会」	福岡県福岡市	小野 紀美代
新築読書グループ	佐賀県佐賀市	横尾 敬子
おはなしだからばこ	長崎県佐世保市	木島 由美子
パペットキッズ	大分県別府市	亀井 和子
読書会「牧水を旅する」	宮崎県延岡市	九鬼 勉
鹿屋小学校読み聞かせグループすてっぷ	鹿児島県鹿屋市	四郎 園佳恵
朗読ボランティアすだち	沖縄県うるま市	上江洲 すみ子

(以上34グループ)

日本図書普及社

贈りものに。お礼、お返しに。

東山魁夷シリーズ
1,000円・3,000円・5,000円 10,000円

「全国図書館大会 東京大会」開催

図書館の現在、これからを
多彩なテーマで情報共有

10月19日(金)、20日(土)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにて「第104回国図書館大会 東京大会(主催：全国図書館協会(日図協))」が開催された。今年のテーマは「市民とともに成長する図書館―図書館専門職の力―」。

19日の全体会は、開会式のあとの「第34回 日本図書館協会建築賞」表彰で、市民ワークショップを42回重ねるなど、市民・図書館・設計者が協力して形となった市立小諸図書館(長野県と、まちづくりの意図、木材を多用した建築の



多彩なパネリストが登場した
全体会でのシンポジウム

暖かみ、町の取り組みの姿勢などが評価された、ふみの森もてぎ図書館(栃木県)に賞が贈られた。

日図協理事長の森西さんが基調報告。この10月に行われた文部科学省の組織変更のなかでも図書館に関わる部分を紹介し、行政における社会教育施設の所管や「第3

期教育振興基本計画」「第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」について説明した。また、公立図書館設置率や貸出数、専門職員数など具体的な数値データをあげて、公立図書館の現状を報告した。

シンポジウム「市民とともに成長する図書館―図書館専門職の力―」は、筑波大学名誉教授の植松貞夫さんをコーディネーターに、武久頭也さん(岡山県瀬戸内市長)、柳瀬寛夫さん(岡田新設計事務所)、豊田恭子さん(バーソン・マータラ)、是住久美子さん(田原市中央図書館)がパネリストを務めた。

20日は、公共図書館、学校図書館、児童サービス、障害者サービ



読書推進運動協議会は「子どもの読書週間」の紹介を中心に展示

ス、多文化サービス、出版と図書館などの各テーマで20の分科会が開催され、各地の先進事例や課題点などが交換された。また、大会事務局企画として、図書館のレファレンスを取りあげたマンガ『夜明けの図書館』の作者 桒納タオさんの講演会も開催され、執筆のきっかけや制作過程、図書館の印象などが語られた。

読書推進運動協議会は昨年到现在、展小会に参加。この春の「第60回 こどもの読書週間」を記念して、「行事報告一覧」で紹介できなかった各図書館の行事写真、これまでのポスター一覧を展示。また、「読書週間」ポスターほかグッズも用意し、「読書週間」開始間近ということもあって、好評のうちに配布を終了した。

造本装幀コンクール全出品作品展示会

紙の書籍の可能性を示す書籍が
一堂に会する!

10月26日(金)〜28日(日)、東京都千代田区の東京堂ホールにて、「第52回 造本装幀コンクール」全出品作品325点の公開展示が行われた。

会場には三賞(文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、東京都知事賞)ほか、主催団体、後援団体による各賞の受賞作を中心に並べられた。

特大版から手のひらサイズまで、さまざまな大きさの書籍があり、ホログラムを表紙に使用したもの、金箔を効果的に使ったもの、刺繍をほどこしたものなど、多彩なブックデザインが目を引いた。

なかには、しつけ絵本や点字つきさわる絵本、絵巻物を彷彿とさせるデザインもあり、紙の書籍の可能性と豊かさが提示された。

展示された書籍はすべて、手に取ることができ、手に取ったときの感触、ページをめくるのが楽しくなる質感、読みやすさと美しさにこだわった文字組などの工夫を確認できた。

会場の一角には、「審査の最終候補まで残り、話題にのぼった作品」コーナーもあり、審査会での熱い議論がしのばれる、個性的な書籍が集められていた。



会場奥に三賞受賞作を配して
個性的な書籍が並べられた



読書推進運動協議会賞の『シンプルな
ディック・ブルーナのデザイン』

■第12回「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」

さまざまな工夫があふれる 読書推進賞活動を評価

10月29日(月)、東京都千代田区のクラブ関東で「高橋松之助記念朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」贈呈式(主催〓高橋松之助記念顕彰財団)が行われた。本年の受賞者は以下のとおり。

【第12回朝の読書大賞】

・ひたちなか市立那珂湊第一小学校
(茨城県ひたちなか市)

「行ってみたいくなる学校図書館」を目標とした、さまざまな工夫が評価された。じゃんけんやくじ、クイズや「図書郵便」など、図書委員の自主性とアイデアを生かした活動で貸出冊数を増やしている。

・ 珍珠町立珍珠中学校

(大分県珍珠郡珍珠町)

2010年から全学年で「朝の読書」を行う。教職員は図書環境の整備、生徒会は読書通帳の提案・集計・表彰、PTAは会紙によるおすすめ図書で紹介と、三者の連携した活動が、生徒の読書支援に効果を発揮している。

・ 京都府立久美浜高等学校

(京都府京丹後市)



賞状を受ける有田川町の中山町長

「アサトレ」と称した毎朝10分の「朝の読書」活動はホームルームの枠を利用、連絡伝達などは昼に行う。学校図書館は「NDCピング」「BOOKS川柳」などのユニークな企画のおかげで、貸出冊数が府内の高校の平均の2倍のトップクラスとなった。

【第12回文字・活字文化推進大賞】

・ 絵本のまち有田川

(和歌山県有田郡有田川町)

人口2万7千人の有田川町は「絵本による町づくり」に取り組んでいる。絵本作家を招いたイベ



今年の受賞者のみなさん

ント「絵本deわつしよい」の実施継続が原点。地域交流センターや駅などに个性的な絵本施設を整備し、新人絵本作家発掘の「有田川町絵本コンクール」の実施などさまざまな活動につなげている。また、「有田川町絵本コンシェルジュ」の育成にも力をいれている。

2016年より、日本児童図書出版協会、子どもの読書推進会議などの協力を得て11月に開催している「絵本ワールドinわかやま(主催〓絵本まちづくり協会)」は、「絵本deわつしよい」「えほんマルシェ」などと同時開催で大いに盛りあがっている。

全国でもめずらしい、行政が中心になった絵本推進事業は、これからも継続的な絵本による町づくりに寄与するものと思われる。

■図書館総合展

第20回の節目を飾る 多彩なフォーラムと展示

10月30日(火)〜11月1日(木)、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で「第20回図書館総合展(主催〓同実行委員会)」が開催された。会場では、書架やブックトラックなど最新の図書館設備、貸出システムやデータベース、読書のバリエーションをサポートするグッズなどが数多く紹介された。

そのほか、鹿児島県指宿市から西日本豪雨などの被災地をまわってやってきたブックカフェ号「そらまMEN」の展示、東京布の絵本連絡会による布の絵本と制作キットの展示、図書館をモチーフにした同人誌を集めたコーナー、各出版社が「図書館へおすすめする本」コーナーなどが展開された。

また、3日間にわたり、80を超えるフォーラムが開かれ、図書館サービスや、資料保存・修復、AIやクラウド技術と図書館の関係、災害と図書館、地域のプラットフォームとしての図書館のあり方、ビブリオバトルなどについて語られた。特に、31日に開かれた第20回記念フォーラム「電子図書館をめぐる出版界と図書館界の変容」『長尾構想』から「LibraE」まで」には、今年の文化勲章受賞が発表されたばかりの長尾真さんがゲストとして登場し、大きな注目を集めた。

会場の一角に設けられた「ポスターセッション」には、公立図書館、専門図書館のほか、多くの

大学図書館が参加し、「読書離れ」といわれる大学生へのさまざまなアプローチ(メディアセンターとしてのアプリ、ポップの活用、書棚づくりの工夫など)が紹介された。



帝京大学共読ライブラリーブースでは「一箱お本市」を再現

■野間読書推進賞受賞者の活動報告 特別編

子どもと本をつなぐヒントを 紹介

第30回(2000年度)の野間読書推進賞特別賞受賞団体でもある東京子ども図書館が、ブックレット『よみかぜのきほんー保育園・幼稚園・学校での実践ガイド』を刊行した。

ブックレットには、読み聞かせをするにあたっての準備やおはなし会の進め方の案内に続き、集団への読み聞かせに向く絵本304冊が、対象年齢や読み聞かせにかかる時間のめやす、読み聞かせ時のポイントなどとともに紹介されている。読み継がれてきたロングセラー絵本に加え、2000年以降

に出版された絵本、写真絵本、アジア・アフリカからの翻訳絵本も入っている。巻末にはキーワードから絵本を探すができる索引もある。現在は入手困難な絵本も掲載されており、名作の復刊を考える出版社にとってもヒントとなると思われる。

また、東京子ども図書館と伊藤忠記念財団が2001〜2004年にかけて全国の子ども文庫を脚した「子どもBUNKOプロジェクト」をもとに、日本の子ども文庫の歴史をたどる、『子ども文庫の100年 子どもと本をつなぐ人びと』(高橋樹一郎著/みすず書房)も、この秋刊行された。

本書では、1960年代〜80年代に広がった子ども文庫だけではなく、明治〜戦前・戦後期の私立図書館運動も紹介され、子どもに本を手渡してきた人びとの100年にわたる活動の全体像が見えてくる。佐藤峻さん(第1回)、川端英子さん・浅川玲子さん(第47回)ほか、歴代の野間読書推進賞受賞者の名前も数多く登場している。



【左】『よみかぜのきほん』
【右】『子ども文庫の100年』

■角野栄子さんの「国際アンデルセン賞」受賞をお祝い

未来と世界の子どもたちにむけた 仕事への感謝とお祝いの会

11月1日(木)、東京都千代田区の出版クラブホールにて、「角野栄子さんの『国際アンデルセン賞』受賞を祝う会(主催：日本国際児童図書評議会(JBBY)、朝日新聞社)」が開催された。会場には作家、編集者、JBBY会員、角野さんのファンなど約200名が集まり、皇后陛下も臨席され、お祝い

と喜びの気持ちを分かちあつた。会の冒頭、JBBY会長のさくまゆみこさんは、角野さんを同賞に推薦する資料づくりの課程、ギリシア・アテネでの授賞式で世界各国の参加者が角野さんの周りに集まつたことなどを紹介した。

角野さんは、「終活をする年齢となつたいま、未来にひらかれた賞をいただいたことがうれしい。東京で国際児童図書評議会世界大会が開かれた年にJBBYに入会して35年、入会当時は日本の作家がこの賞をとるなんて考えられませんでした。この受賞で日本の文学、そしてJBBYへのお返しができたことが、うれしい」と、喜びを語つた。

乾杯の挨拶で、小学館社長の相賀昌宏さんは、「この賞はひとつの作品をいろいろな国の子どもたちが読む機会となる。角野さんの作品を通じて、世界の子どもたちが話しあう、そんな未来を夢見ています」と述べた。



花束を贈られ、笑顔の角野栄子さん
(写真提供: JBBY)



会の終了後、角野さんから参加者ひとりひとりに手渡された「おみやげ」

祝辞は3人。国際アンデルセン賞の選考委員でもある大阪国際児童文学振興財団の土居安子さんは、選考会では、8〜10歳の読書こそが、子どもたちにはたいせつという議論になつたと紹介。「角野さんの作品は、その年齢の子どものころに響くことばで紡がれています。子どもが不安を乗り越えられる力となる作品をこれからも書いてください」と語つた。

2014年に同賞を受賞した上橋菜穂子さんは、皇后陛下の著書『橋をかける』の一節をひいて、「角野さんの本からは、人びとに『橋』をかける意志が受け取れます。いま、『橋』が分断されていますが、角野さんの本を読んでできた子ども、大人は『橋』のたいせつさを知っていると、今回、角野さんが受賞したことの意味を強調した。

現在、「いちばん長いつきあい」の担当編集者、ポプラ社の松永緑さんは、「角野さんの声の楽しいう響きとメロディを作品に活かすように、一緒に冒険に出るような気持ちで仕事をしてきました」と編集者の思いを述べた。

■第50回 出版功労者顕彰会

新たに版元、書店関係者から
9名の出版功労者を顕彰

10月5日(金)正午より、箱根普ノ湖畔の出版平和堂に出版関係者約100人が集い、「出版平和堂 第50回 出版功労者顕彰会(主催)日本出版クラブ」が行われた。

式は野間省伸 日本出版クラブ会長が挨拶。冒頭に6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部大地震とつづいた災害へのお見舞いがあった。昨年来のお堂の改修工事につづき、

近藤敏貴 日本出版取次協会会長が9名の新顕彰者の奉告を行い、相賀昌宏 日本書籍出版協会理事長による献詞奉読のあと、参加者全員で献花が行われた。船坂良雄 日本書店商業組合連合会

長が9名の新顕彰者の奉告を行い、相賀昌宏 日本書籍出版協会理事長による献詞奉読のあと、参加者全員で献花が行われた。船坂良雄 日本書店商業組合連合会



出版を通して平和な社会を守ることを先達に誓う

■「日販おはなしマラソン」キャンペーン

「読書週間」にあわせ
全国80書店で読み聞かせ会!

日本出版販売株式会社(日販)は、10月1日(月)から11月9日(金)まで、全国の80書店で「おはなしマラソン」読み聞かせキャンペーンを開催した。

このキャンペーンは、店頭での読み聞かせ会「日販おはなしマラソン」を継続して開催している書店に呼びかけ、2001年秋より毎年、春の「こどもの読書週間」と秋の「読書週間」にあわせて開

催されている。今秋のキャンペーンが35回目となる。期間中は参加書店がそれぞれ、工夫をこらした読み聞かせ会を開催。読み聞かせ会に参加した保護者からは、「やさしく読んでもら

い、大人も子どもに戻ったような気分と一緒に楽しめた」「みんなが聞いていると、自分も聞いてみよう」と子どもが感化されるよう「だ」などの感想がよせられている。

長感謝のこぼに続き、役員と新顕彰者の家族で記念撮影、そして会場を箱根ホテルに移し、鹿谷史明 日本雑誌協会理事長による献杯で、懇親会が行われた。

開催した書店からは「絵本の内容にあわせて子どもたちと会話を交わすなど、反応を大事にしながら読んだ。楽しいひとときになったと思う」など、好評を得ている。

キャンペーン期間中、読み聞かせ会の参加者には、年齢別絵本ガイドブック「いくつのえほん」や、折り紙などをプレゼントされた。「日販おはなしマラソン」ホームページには、参加書店名と開催日時、おすすめ絵本などの情報が掲載されている。

●日販おはなしマラソン

https://www.nippan.co.jp/ohanashi_mathon/

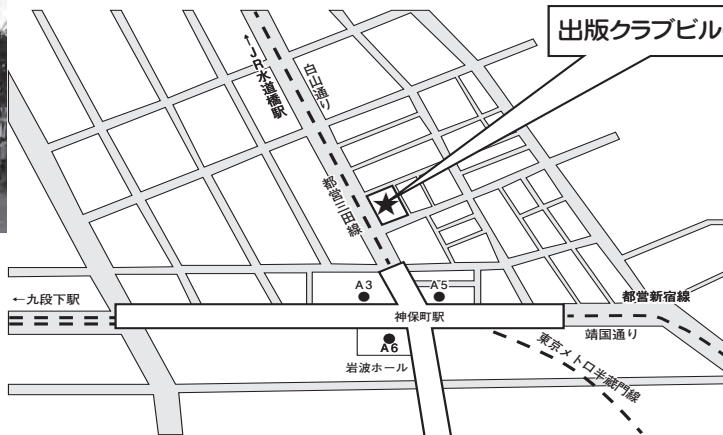
公益社団法人 読書推進運動協議会

神保町駅
(東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄新宿線・三田線)
A5出口より徒歩2分

小さな事務所ですが
お気軽にお立ちください
東京都千代田区神田神保町 1-32
出版クラブビル6階
TEL 03-5244-5270
FAX 03-5244-5271



多くの書店が並ぶ「すずらん通り」



神保町の交差点から見た出版クラブビル

「本が好き」運動

来年10月の消費税増税にむけ、出版物への軽減税率適用を要求

出版界が抱える課題に対して広報活動を行う出版広報センターが先導し、出版物に対する消費税の軽減税率の適用を求めているのが「本が好き」運動です。

本来、2015年の10月に10%に上がる予定だった消費税率は、景気低迷の理由で延期され、いよいよ2019年の10月に引き上げになります。

広報センターでは、欧州などを

例にとり、世界では付加価値税には軽減税率が適用されることが主流であり、イギリスの標準税率20%に対して書籍・雑誌に対する税率は0%、ドイツは19%に対して7%などとなっており、日本も文化政策としての出版物への軽減税率適用を要求しています。

そして、全国で草の根の読書推進活動をしている読書グループに協力をおおき、11月4日と6日、朝日・読売・毎日の全国紙3紙にアピール広告を掲載しました。出版物に対する思いを、広く一般から集め、「この国の未来のために、出版物に軽減税率を。」と訴えています。



「本が好き」新聞広告

NPPOブックスタートが講演会開催へ

子育て支援がなぜ必要かを最新の研究から解説

NPPOブックスタートは、「子ども・社会を考える」講演会シリーズを、2019年1月27日(日)に日暮里サニーホール(東京都荒川区)で開催すると発表した。

第6回となる今回は「共同養育が人類のスタイル〜現代のママたちがツライ科学的な理由〜」と題して、京都大学大学院教育学研究科教授の明和政子さんを講師に迎え、ヒトとチンパンジーの比較や

脳科学の最新研究をもとに、現代の子育ての特徴や課題について学ぶ。対象は子育て支援に携わっている人や関心のある人で、参加費は無料だが、事前の申し込みが必要。参加申し込み者は12月以降、順次、入場券(はがき)が郵送される。2019年1月23日(水)が申し込み締め切りだが、定員に達しただけ、受付を終了する。

この講演会シリーズは、これまで

でに詩人の谷川俊太郎さん、小児科医の榎原洋一さん、臨床心理士の武田信子さん、保育士の井桁容子さんなど、さまざまなジャンルの講師で開催されている。申し込みは、ホームページから、または電話にて。詳細はNPPOブックスタートまでお問い合わせください。

【NPPOブックスタート】

〒1162-0814
東京都新宿区新小川町5-19
角田ビル3階
TEL 03-5228-2891
ホームページ
http://www.bookstart.or.jp

事務局報告(10月)

- ☆1日||「全国読書グループ調査」調査票配布終了
- ☆4日||「第72回読書週間」事業について、図書普及と打ちあわせ
- ・4日||「大震災出版対策本部運営委員会」に出席
- ・5日||「伊藤忠記念財団 子ども文庫助成」書面提出終了
- ☆5日||機関紙「読書推進運動」61号別冊「2018」ことこの読書週間行事報告」入稿
- ・5日||「第50回出版平和堂・出版功労者顕彰会」に出席
- ☆9日||機関紙「読書推進運動」61号本紙、入稿
- ☆9日||「野間読書推進賞贈呈式」について文部科学省総合教育政策局に祝辞依頼・打ちあわせ
- ☆10日||機関紙「読書推進運動」61号本紙・別冊、校了
- ☆12日||「第48回野間読書推進賞贈呈式」案内を発送
- ・13日||日本児童文芸協会「第18回創作コンクールつばさ賞」授賞式に参加
- ☆15日||機関紙「読書推進運動」61号、出来
- ☆16日||「若い人に贈る読書のすすめ書目選定事業委員会」開催
- ☆17日||事務所移転について富士ゼロックス東京と打ちあわせ
- ・19日・20日||「第104回全国図書館大会東京大会」に参加
- ☆20日||事務局移転
- ☆24日||「2018年度第3回常務理事会」開催、7月から9月の財務報告および事業報告
- ☆25日||「野間読書推進賞」要項、入稿
- ☆25日||「講談社社長会」に出席
- ☆27日||11月9日「2018年 第72回読書週間」
- ・27日||「第28回 神保町ブックフェスティバル」に参加
- ・29日||「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」贈呈式に出席
- ☆31日||「野間読書推進賞」要項、出来

編集部 & 事務局のひとこと

●9月25日からの「全国読書グループ調査」調査票の配布、「子ども文庫助成」書面提出、野間読書推進賞贈呈式の準備、「読書推進運動」10月号本紙・別冊入稿、「全国図書館大会」展示と、慌ただしく過しているうちに、事務局移転の日を迎えました。神楽坂での最後の週は、通ったお店をめぐってランチを……と思っていたのですが、そんな余裕はなく、最終日の19日にいたっては小田急線新宿駅で電車待ちのあいだに、ホームでパンを詰めこむしまつ。そこで仕事ができるのは、事務局スタッフのサポートがあつてこそです。

●野間読書推進賞贈呈式のご案内を差しあげたこれまでの受賞者の方からは、近況報告とともに「新しい事務所に立ちよつてみたい」のうれしい声もいたただいております。ぜひぜひ、お立ちよつて！

●毎年、東京都美術館の「美術の祭典・東京展」に地元の昔話絵本を出品していると近況報告で教えてくださる、静岡県伊東市の山本悟さんからは、今年も展覧会の前にご案内をいただきました。会場で拝見した絵本からは、山本さんのお人柄と、伊東の人たちの生活、思い、やさしさが伝わってきて、「ホッと一息」。

●悲しいお知らせもありました。本紙にもご寄稿いただいた静岡市・遊本館の清水奈緒子さんが、ご案内の直後に亡くなられたとのこと。11月6日の贈呈式では、宮城県の成田和子さん親子、栃木県の小川範子さんと、奈緒子さんを偲びました。(伸)